

H29年度本校の全国学力・学習状況調査の結果について

山梨大学教育学部附属中学校 H29.10.24

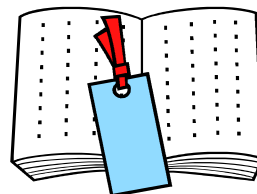
はじめに

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日（火）に全国の小中学校で実施され、本校でも、3年生158名が参加しました。調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・数学）と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、国語・数学は、A；主として「知識」に関する問題と、B；主として「活用」に関する問題に分かれています。

この調査は、本校生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

9月に文部科学省から本校の結果が送付され、本校で結果の分析を行い、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思っております。

なお、調査に参加しました3年生一人ひとりには、後日個人票を配付します。自分の結果を確認し、個人的にも今後の学習に役立ててください。よろしくお願いいたします。



1 本校の状況（全国との比較）

本校の全体的な傾向は、国語A、国語B、数学A、数学Bすべてにおいて平均正答率が極めて高く、良好な結果である。また、各自の正答率に目を向けても、散らばり方が小さい。国語・数学ともA問題に比べてB問題の平均正答率が若干低い傾向もこれまで同様であるが、全国と比べるとその差は小さい。本校では、この差をより小さくしていけるように、活用する力の育成を図っていききたい。

本校の各調査結果を比較すると、次のように言える。国語では、A問題で、全国の平均正答率との差が他の3つの問題ほどは大きくない。これは、本校の平均正答率はかなり高いが、全国の平均正答率も高かったことが原因であろう。数学では、A問題で、各自の正答率の散らばり具合がやや大きい。教科の特性なのかもしれないが、散らばりを小さくできれば、A問題の平均正答率をさらに高くできる可能性があるということでもある。日常生活にかかわる課題を取り上げて行っている教科研究を、今後も継続していくことで、活用する力の育成とともに、高い正答率を維持しながら、各自の正答率の散らばり具合を小さくすることが可能ではないかと考える。

[参考] 国公立を含めた全国平均正答率と公立中学校の県平均正答率

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国平均正答率	77.4	72.2	64.6	48.1
全県平均正答率	79	74	64	49

（全県平均正答率については本年度から整数表示になりました。）

2 本校の主な成果と課題

国語

A 主として「知識」に関する問題

○無解答率が極めて低いという結果が、設問全体を通して現れている。全国の国公立校の中で最も高い無解答率が10%を超える設問があるが、その設問に対しての本校生徒の無解答率は極わずかである。これは、知識に関する基礎・基本の理解の高さと問題を解決しようという積極的な学習への意欲の高さが現れているものだと考えられる。

○言語事項、その中で漢字については、全ての設問で全国の正答率を上回っている。本校の国語科では日頃から全学年を通して言葉の獲得を意識した活動を取り入れており、その結果が現われているものと考えられる。

△全国的に正答率が低い問題においては、本校生徒も他の設問と比較してみると比較的正答率が落ちている。本校の成績を考えたときに正答率が他に比べて顕著に低い設問として「話し合いの記録として適切な言葉を考える」という趣旨の設問である。事象や行為などを表す多様な語句を、日常や社会生活に即して考えられることが必要である。

B 主として「活用」に関する問題

○「活用」に関する問題に関しても、無解答率が極めて低いという結果が、設問全体を通して現れている。全国の国公私立校の中で最も高い無解答率が10%を超える設問があるが、その設問に対しての本校生徒の無解答率は0%である。これは、すでに学習した内容を活用するための基礎・基本の理解と問題を解決しようという学習への意欲の高さが現れている。

○記述式という問題形式の設問の正答率も高いという結果が見られる。すべての問題形式（選択式・短答式・記述式）の正答率が、全国の国公私立校を上回っている。さまざまな機会を捉えて、書くことを重視している学習の成果であると考えられる。

△課題としたい設問は「比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く設問」である。他の設問と比べて正答率が低い設問である。無答率が0%ということから、自分の考えを書く際、根拠として取り上げる内容が相手に伝える上で適切であるか吟味することを日常的に行うことが求められている。

数 学

A 主として「知識」に関する問題

○設問全体を通して無解答率が極めて低く、内容に対する理解と何とかして問題を解決しようという意欲が、ともに高いことがうかがえる。

○全国的な傾向において課題とされた、扇形の弧の長さを求める設問に対して、本校では多くの生徒ができています。

△全国的な傾向において課題とされた、関数の意味や範囲の意味を問う設問に対しては、全国ほどではないものの、本校でも他の設問に比べると正答率は低い。

△錯角の意味を問う設問に対しては、他の設問の正答率の傾向と見比べると、本校の正答率は低い。

B 主として「活用」に関する問題

○全国的な傾向において無回答率が低くなる説明や証明などの記述問題に対しても多くの生徒が解答している。これは基礎基本となる知識を用いて説明しようとする意欲の高さがうかがえる。

△全国的な傾向において課題とされた、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明する設問、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する設問、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する設問に対しては、全国ほどではないものの、本校でも他の設問に比べると正答率は低い。

3 各教科における主な改善点

国 語

*漢字の読み書きの学習を継続し、文章を書く中で使用できるように指導する。

*多くの情報に触れ、情報に対して問題意識を持ったり、新しい発見をしたりするためには、自分の体験を結びつけて考えられるとよい。国語の授業だけではなく、新聞や雑誌等の記事などを活用しながら、自分の周りの出来事に関心を持たせるような指導を心がけたい。

*授業で身に付けた知識や技能を、活用する場面を設定したい。その際は、目的意識を明確にするために、生徒の実生活や社会生活に即した場面を考えて取り上げるようにしたい。

*自分の意見に説得力を持たせるために、主張・根拠を意識して話したり書いたりすることを意識できるような指導をする。また、自分の考えを表現する際には、「主張と根拠の整合性はどうか」「もっとよい表現の方法はないか」などの観点を持たせるような指導をする。

数 学

- * 関数、範囲、錯角の意味を正しく理解し、正確な表現方法を身につけられるように、数学で使われる用語を確認する機会を増やし、それらを使って説明したり文にまとめたりする活動を充実させる。
- * 事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することが出来るようにするために、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を充実させる。

4 質問紙調査の主な特徴

質問紙調査は、学校や家での勉強や生活の様子について調査したものである。全国における、学校や家庭での学習や生活の状況と全国学力・学習状況調査の国語と数学の結果との関係については、国立教育政策研究所のHPに掲載されている「平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料」のとおりである。

本校生徒の生活習慣や家庭学習などの主な状況は以下のとおりである。

生活習慣について

- * 「毎日朝食を食べている」と回答した生徒の割合(%)は、全国平均を11.0ポイント上回っている。
- * 「普段(月曜～金曜、以下同じ)1日あたりのテレビなどを視聴する時間」については、1時間以上、2時間未満と回答した生徒の割合が最も多い。
- * 「普段1日あたりのテレビゲームなどをする時間」については、1時間未満と回答した生徒の割合が最も多い。
- * 「普段1日あたりの携帯電話等での通話、インターネット、メールをする時間」については、30分未満と回答した生徒の割合が多い。その一方、4時間以上、3時間以上と回答した生徒も若干いる。

自分や友達、学級について

- * 「学校で友達に会うのは楽しい」と回答した生徒の割合は、全国平均を8.1ポイント上回っている。
- * 「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した生徒の割合は、全国平均を30.3ポイント上回っている。
- * 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した生徒の割合は、全国平均を14.7ポイント上回っている。
- * 「自分には、よいところがあると思う」と回答した生徒の割合は、全国平均を13.5ポイント上回っている。
- * 「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」と回答した生徒の割合は、全国平均を4.5ポイント上回っているが、どちらかという苦手であると感じている生徒も5割近くいる。「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した生徒の割合も、全国平均を14.6ポイント上回っている。
- * 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」については、当てはまると回答した生徒の割合が全国平均より22.1ポイント上回っている。

学習や読書について

- * 「普段1日の学習時間」については、2時間以上と回答した生徒の割合が最も多い。そのうち3時間以上も2割以上いる。また、「土曜日曜など、休日の1日あたりの家庭学習時間」も、3時間以上が5割であり、全国と比較して学習に取り組んでいる。
- * 「普段の1日の読書時間」については、10分以上30分未満の生徒の割合が最も多く、読書時間が確保されていない現状がある。
- * 「国語の勉強は好きか」については全国平均を14ポイント上回り、「数学の勉強は好きか」については、全国平均を16ポイント上回っている。

授業について

- * 「1・2年生の時にうけた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいましたか」という質問では、50.1ポイント全国平均を上回っていた。
- * 「1・2年生の時にうけた授業では、生徒の間で話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか」という質問では、41.4ポイント全国平均を上回っていた。
- * これまで受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたという質問では、13.4ポイント全国平均を上回っていた。

地域や社会への関心について

- * 「地域の行事への参加」については、全国平均を6.5ポイント下回っている現状がある。
- * 「地域や社会でおこっている問題や出来事に関心があるか」については、関心があると回答した生徒の割合は全国平均を24.8ポイント上回っている。また、「新聞を読む」、「ニュース番組などをみる」生徒の割合もかなり高い。
- * 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい」と回答した生徒の割合は、全国平均を26.2ポイント上回っている。



5 質問紙調査からの改善点

- * 将来の夢や希望を持っていない生徒が「どちらかといえば」を含め20ポイントであり、さらにキャリア教育を充実させていく必要がある。
- * 携帯電話やスマートフォン、インターネットを毎日使っている生徒が9割近くいる。使用方法や情報モラルをより一層指導していく必要がある。(10月17日に3年生は防犯講話を行い、ネットモラルやトラブル防止の学習を行いました。)
- * 「読書が好き」と回答した生徒の割合は7割であったが、1日の読書時間が30分未満の割合が5割をこえている。今後も日常的な読書習慣を身に付けさせたい。

※ ご家庭へのお願い ※

調査結果から、本校の生徒は落ち着いた生活環境の中で、自分や友達を大切に、何事にも前向きに努力している様子が分かります。多くの生徒が、楽しく学校生活を送っているようです。

学習への意欲、取組内容や時間も全国平均を大きく上回っています。新聞を読み、ニュース番組を見るなど、社会に目を向け関心を寄せている生徒も大勢います。しかし、5人に1人はまだ将来の夢や希望を持っていません。様々な話や体験などを通して、将来の夢や希望を考えていく機会をつくっていただきたいと思います。

読書については、読書が好きな生徒の割合が7割近く、月に数回図書館に行く生徒の割合が5割近くいます。しかし、1日の読書時間が30分より少ない生徒が5割以上おり、全体的に読書時間は少ないと言えます。塾や習い事、家庭学習などに時間を取られるからかもしれませんが、日常的な読書習慣を身に付けさせたいものです。

自分の携帯電話等の所有率が全国平均より高く、携帯電話やスマートフォン、インターネットを毎日使っている生徒が大勢います。メールやSNSによるトラブルも起こっています。ご家庭で使用ルールをつくるなど、トラブルの防止につながる対応をお願いいたします。